令和５年度　第２回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

１　日時及び場所

令和５年９月２５日（月）１０時００分～１２時００分

四国森林管理局　局議室（Web 併用）

２　議事概要

【委員会の検討結果】

住宅着工戸数の減少が製材品の需要低迷に拍車をかけており、全般的に荷動きが鈍化しているとの声が聞かれる中、ヒノキの一部銘柄については、一定の需要が見受けられる。

このような中、丸太の需要においても、スギについては引き合いが弱く厳しい状況が続くが、ヒノキについては、安定した引き合いも見られ価格は概ね横ばい、品薄感が聞かれる市場もあり、国有林には安定した供給が求められている。

このため、引き続き国有林材の供給調整は行わず、民有林材の出材状況や製材品の動向等に注視しつつ、需給動向を見極めていくべきである。

【主な意見等】

○ 素材生産業

・　県内への原木入荷量は、夏場の雨の影響等で６月以降減少傾向、ヒノキの荷余り感から本年３月以降スギ生産へ移行した事業体が見られることから、最近、ヒノキは不足気味と聞いている。

・　丸太の出材状況に変化はない。スギは動きが鈍い状態が続くが、ヒノキは品薄感から引き合いはある。

・　天候不順な日々が多いため作業道作設に支障が生じており、円滑な生産活動ができていない状況にあると感じている。このため、素材生産量は大きく落ち込んでいると思われる。今後、天候が安定すれば生産活動は概ね順調に推移すると思われるが、別要因としてマンパワー不足による生産量の落ち込みが懸念される。

○ 原木市場・共販所

・　天候不順により現場から搬出できない日が続いたため、スギ、ヒノキとも入荷量は減少。販売にあたっては、ヒノキは引合いがあるものの、スギは低調で特に大径木の引き合いはない。今後についても、スギに関しては年内は値下がり傾向、ヒノキに関しては時期が良くなっても横ばい若しくは若干は値上がりがあるのではないか。

・　悪天候が続いたことにより入荷は少なめだが、建築関係の動きが悪くなってきているので、製材所も在庫を増やさないよう調整しており、丸太の買い気はよくない。
　価格については、出材が少ないこともあり維持できているように感じるが、スギ・ヒノキともに岡山の価格が下がってきているため、四国の価格も下がる恐れがあるのではないか。
・　６～８月の入荷量は、前年比ヒノキ１００％、スギ８２％で推移。荷動きは、ヒノキは引き合いがあり良好だが、スギは製品荷動きの悪さが反映し鈍化している。
　価格は、ヒノキは３ｍ柱口、４ｍ土台及び小丸太が強保合で推移しており安定しているが、今後、天候が良くなり出材量が増えてくれば、原木価格は弱含むのではないか。スギは全体に先行き不透明感が増しており弱含み、今後もあまり回復は見込めず現状のまま推移するのではないか。

○ 製材工場等
・　原木の調達においては、ヒノキの入荷が不足がち、適寸が不足という見方もあるようだ。製品の動向については、住宅着工棟数の減がさらに弱含みを増長しており、在庫増、荷動き弱含み、価格の下落と厳しい傾向が、今後も続くのではないか。
・　原木調達は、６～７月は順調に仕入れたが、８月は必要材積 6,500m3 の 20%減となった。販売面では、引き続き羽柄材の販売に苦戦、構造材（柱、土台）の販売は好調であったが、８月に入ると構造材、羽柄材ともに急に失速し、先月比 30%減の販売となった。今月は 10%減程度だが、製品置場がなく減産を余儀なくされている。
　製品単価はほぼ横ばいでの販売だが、根本的に一般住宅の着工戸数の減少で販売が減少していると感じる。
・　天候不順のほか製品売上の減少の影響もあり、お盆明け以降は原木の出材が少ないが、製品の動向は今年に入って月を追うごとに悪くなっており、益々見通しがつきにくい。製品価格もコロナ禍前に近づいており、製材工場では経費が増すなか採算が悪くなっている。
　コロナ禍における制限が明けたことや物価高により、住宅やＤＩＹにお金が向いていないと考える。